

1971年8月 7日 第三種郵便物認可(毎月6回 1の日・6の日発行)
2003年11月23日発行 SSKA 増刊・通巻4705号

SSKA

ああるぴい

神奈川支部会報第29号



私たち自身で
治療法の確立と
生活の質の向上を目指す



J R P S 神奈川支部

目 次

障害者人権 110 番のお知らせ	1
【J R P S 神奈川の活動】	
総合カレンダー	2
つくしの会便り	2
カラオケ交流会のお知らせ	3
陶芸クラブのご案内と入会募集	4
得々講座のご報告	4
網膜色素変性症市区町村別患者数	7
【情報コーナー】	
ドラエモンのポケット	8
第九回神奈川ロービジョンネットワーク研修会 ...	9
市民公開講座「実用化間近い人工視覚」のご案内 ...	10
【投稿コーナー】	
デジカメウォッチング	11
私の喜び	13
手を上げ声を出そう	14
ウッチャンの体験記シリーズ	16

◆障害者の日記念 障害者の人権 110 番

横浜弁護士会では、障害者の日にちなみ、障害者の人権に関する、無料法律相談を、昨年に引き続き実施いたします。当会所属の弁護士が、法的な側面から、障害者または家族の方々が抱えておられる様々な問題点について、ご相談に応じ、解決の一助になればと実施いたします。一日限りの電話相談ではありますが、FAXも用意しておりますので、お気軽にご相談をお寄せ下さい。

日 時；平成15年12月9日（火）午前10時～午後4時

電 話；045－664－4814

FAX；045－664－4817

（FAXでご相談の方は、連絡先明記の上、必ず、時間内にお流し下さい。
お問い合わせは、弁護士会事務局045－211－7701まで。

【JRPS神奈川の活動】

●総合カレンダー

12月 6日(土) 第九回神奈川ロービジョンネットワーク研修会 ※

12月 9日(火) 障害者人権110番 (※目次のページをご覧ください。)

12月13日(土) ミニ集会 県民サポートセンター 711号室

時間変更 14:00～17:00

終了後忘年会を予定しています。

会場:「和民」横浜駅西口 会費:約3000円

2004年

1月11日(日) ミニ集会 県民サポートセンター 708号室

1月24日(土) 陶芸クラブ 横浜ラポール 13時～15時 ※

2月 1日(日) 市民公開講座「実用化間近い人工視覚」 ※

2月 7日(土) カラオケ交流会 ビッグエコー横浜関内店 ※

2月15日(日) ミニ集会 県民サポートセンター 710号室

2月28日(土) 陶芸クラブ 横浜ラポール 13時～15時

3月20日(土) ミニ集会 県民サポートセンター 601号室

3月27日(土) 陶芸クラブ 横浜ラポール 13時～15時

4月11日(日) ミニ集会 県民サポートセンター 604号室

4月24日(土) 陶芸クラブ 横浜ラポール 13時～15時

5月 9日(日) ミニ集会 県民サポートセンター 604号室

◎ミニ集会の時間は、通常13:00からです。

※ この印が着いている項目は本文に記事が掲載されています。

●つくしの会便り

皆様こんにちは、山内です。お元気ですか？ 10月8日久里浜はなの国へのご参加ありがとうございました。あいにくの悪天候にもかかわらず、思いがけない多くの皆さんの参加をいただき、大変嬉しくまた、楽しい一日を過ごさせていただきました。

台風の影響で、コスモスやその他の花も雨や風に倒されしおれてとてもかわいそうでした。私たちも強い風の中寒さにふるえました、でもとても楽しいバスが園内を走っていましたね。バスが近づくと「シュツ、シュツ、シュツ。」と何とも懐かしい音が聞こえてきました。童心に返り、皆さんとても楽しそうでした。

この日の参加、会員・ご家族・ボランティアさん含めて総勢29名でした。寒い中本当にありがとうございました。

つくしの会もはや一年を迎えました。春秋と花を見に出かけましたが、冬はお休みして、また暖かくなったら何か計画しましょうということになりました。ご意見ご希望などございましたらお寄せ下さい。

どうか皆さん、寒さに負けないで頑張ってください。



●カラオケ交流会のお知らせ

毎回、ご好評を頂いているカラオケ交流会では、日頃のストレス解消と親睦を兼ねて、広く皆さんからの参加を呼びかけています。みんなで歌えば、冬の寒さも吹き飛びます。どうぞお気軽にお越しください。

日 時 : 平成 16 年 2 月 7 日(土) 14:00～17:00

場 所 : ビッグエコー横浜関内店 TEL:045-640-6780

(JR根岸線関内駅北口より徒歩1分)

会 費 : 2500円位

集合場所: JR関内駅北口の改札口付近(横浜寄りの階段を利用)

集合時間: 13時30分

申し込みは、下記の連絡先にお電話ください。

渡辺千登世 04*-*-*-*-*

高木 貞子 04*-*-*-*-*



カラオケ交流会



陶芸クラブ

●陶芸クラブのご案内と入会募集

陶芸クラブは発足約2年ほど経過し、それぞれ技術向上し高度な作品を作るようになってきております。毎月第4土曜日を活動日とし横浜ラポールで1時から3時まで行っております。わずか二時間程度ですが、無言で指先に気持ちを集中したり、日常会話や、うちのギャグにつっこみを入れたり、さまざまな和気藹々な二時間です。

最初は粘土いじりから型作り、乾燥、釉薬を塗っての釜焼き等の工程がありますので作品が完成するまでに3ヶ月程度の期間が必要になります。

皆さんもぜひ入会し、自分なりの発想で一個しかない作品を製作してみても如何でしょうか。

詳細についてのお問い合わせは下記まで。

内田 知 Tel 04 *-**-****

長沢幸男 Tel 04 *-**-****

なお、来春1月の活動後、新年会を実施しますので、奮っての参加をお待ちしています。

●得々講座のご報告

去る11月9日(日)、得々講座として、特定疾患制度についての講座が県民サポートセンターで行われました。

お話は、県保健予防課の川城主幹がお出で下さり、改正になった制度の内容や質疑応答などが行われました。以下概要をお伝えします。

今回の医療受給者証の更新では、皆様の手に届くのが間際になってしまい、大変ご心配をおかけしました。この場をお借りいたしまして、深くお詫び申し上げます。今回の制度改正は、県の方も事務作業に追われ。また、患者さんからの問い合わせも大変多く、昼はほとんど電話の対応に追われ作業にかかるのが5時過ぎという状態でした。

《難病対策の歴史》

昭和45年の10月社会保険審議会において、原因不明で社会的に対策を必要とする特定疾患については全額公費負担とするの答申がだされる。

昭和47年難病対策要綱で調査研究の推進・医療施設の整備・医療費の自己負担の解消がうたわれ特定疾患事業の基礎となる。

48年 特定疾患治療研究事業実施要項 難病調査研究20疾患 治療研究6疾患として事業が始まる。

平成8年 網膜色素変性症が37番目の対象疾患になる。

現在調査研究対象121疾患、医療費の助成を行う治療研究45疾患である。

《事業のしくみ》

法律で行われている事業ではなく、国の要綱で行われている。

要綱の目的 原因が不明であって、治療法が確立していないいわゆる難病のうち、特定疾患については、治療が極めて困難であり、かつ治療費も工学であるので、特定疾患治療研究事業を推進することにより、特定疾患に関する医療の確率と普及を図るとともに、患者の医療費の負担の軽減を図ることを目的とする。

実施主体は都道府県で、医療費は県が現物給付する。国は予算の範囲内で必要な経費の2分の1を県に補助する。しかし、神奈川県では、平成14年度、本来国から補助されるべき金額の58%しか来ていないのが現状である。不足分は県が負担することになり、この超過負担分が大きな問題となっている。県では財政面だけではなく、難病対策はもっと総合的・体系的に取り組むべきではないかという理由から、法制化すべきであると国に要望している。

今回の制度改正で臨床調査個人票の提出が毎年になった。研究活用に同意された方のデータは、疾患研究の基礎資料として使用されている。網膜色素変性症の研究は九州大学医学部の石橋教授を班長とする網膜脈絡膜・視神経萎縮症研究グループに送られている。

《寄せられた要望・疑問点についてご説明いたします》

- ・一人の患者さんで2つ以上特定疾患に該当する場合はどうなるのか。
それぞれについて申請する。医療受給者証もそれぞれについて発行いたします。
- ・提出書類についてもう少し配慮してほしい。(文字を大きくしてほしい。)
来年度は申請書は別としても説明書だけでも文字を大きくできないか検討します。
- ・受給者証に疾患名が明記されるようになったがなぜか？
番号について医療機関から問い合わせが多数あるため。
医療機関には、特定疾患について、要綱やチラシを配布し周知を図っているが、それでも多数の問い合わせがある。そのため疾患名を入れることとした。受給者証は医療機関で提示する物なのでプライバシーの侵害にはあたらないと考えている。
- ・診断書の費用が医療機関でまちまちなのはどうしたものか。
文書料は医療機関で独自に定めることができることになっている。

・特定疾患の制度が今後どうなってゆくのか？

国の施策なので私どもでは何とも言えない。今回の制度改革は結構大きいもので、若干の修正はあっても当面はこの制度で推移して行くのではないかと思う。

・特定疾患の認定を得るための手順。

1. 眼科で網膜色素変性症と診断されたら。
2. 保健福祉事務所で特定疾患申請の書類をもらいます。
3. 申請書類を作成します。臨床調査個人票は眼科で記入してもらいます。
4. 申請書類を保健福祉事務所に提出します。
5. 審査会が月一回行われ、認定されると医療受給者証が送られてきます。

《質疑応答》

・役所から来る文書が分かりづらい。もっと分かりやすくしてもらいたい。

・診断書料の補助の受けかたについて。

（編集部注；講座当日の説明では医療機関の証明をもらえば患者本人に支払われる旨の説明がありましたが、後日訂正されましたので、ここにお伝えいたします。） 文書料の補助（1680円）は医療機関に支払われます。患者さんには支払われません。従って、医療機関の窓口で、県に補助制度のある旨を伝えて下さい。

またこの件に関しまして、臨床調査個人票に県で文書料の補助をする旨を記載すれば、わかりやすくできるとの妙案も出されました。

・医療受給者証は、県内だけでしか通用しないのですか？

医療証は、神奈川県と契約しているところで使えます。県内ですと医師会に入っているところは医師会でまとめて契約しています。県外ですと、個別に契約しているところでないといえませんが、そういう場合は、保健所に第八号様式というのがありますので、医療機関で証明してもらえばお支払いいたします。

・一部負担金が人によって違うのはどうしてですか？

9月30日までは一律でしたが、10月1日からは所得に応じて7つのランクに分けて自己負担限度額が定められました。また、重傷患者さんに加え、市町村民税が非課税の方も自己負担額なしとなりました。

・申請書が一般と重症と2種類入っていてとても分かりづらかった。

重症用申請書を保健所に持っていった場合も受け取るよう連絡していただいています。（中村）

・毎年同じアンケートが入っているが・・。

保健所の保健士さんサイドからの要望です。

・要望ですが、難病相談支援センターは独自のセンターを設置してほしいと思います。

JRPSとしても研究部会に参加していますが。先ほど県難連、四大学の難病相談センターがあるとのことでしたが、これではぜんぜん不足です。県の施設の一室を使ってでも実際に当事者が相談に訪れることのできる場所が必要です。補助金と委託事業でやるよりも患者の立場に立ってやっていただくとありがたい。予算も少なくても済むのではないかと。

・更新手続きの書類に返信用の封筒を入れていただくと助かるんですが。

実は過去に返信用封筒を入れたことがあるのですが、切手を貼っていないものが多数きてしまいとても大変なことになってしまいました。そのため現在は入れていません。

それでは、書類の下に宛先を印刷し、切り取って封筒に貼れるようにしていただくと助かります。「分かりました、検討させていただきます。」

今日はせっかくのお休みのところ私たちのために来ていただきましてありがとうございました。(司会)

◆『網膜色素変性症』平成14年度 市区町村別患者数

鶴見区	67	神奈川区	49	西区	11	中区	33	南区	30
港南区	32	保土ヶ谷区	43	旭区	60	磯子区	35	金沢区	43
港北区	50	緑区	41	戸塚区	45	瀬谷区	27	栄区	30
泉区	36	青葉区	45	都筑区	24	川崎区	47	幸区	41
中原区	23	高津区	32	宮前区	28	多摩区	37	麻生区	28
横須賀市	114	平塚市	47	大磯町	8	二宮町	7	鎌倉市	42
逗子市	16	葉山町	6	藤沢市	76	小田原市	79	箱根町	10
真鶴町	4	湯河原町	7	相模原市	155	三崎	18	厚木市	61
海老名市	26	座間市	31	愛川町	11	清川村		南足柄市	8
中井町	5	大井町	3	松田町	2	山北町	4	開成町	3
城山町	9	津久井町	10	相模湖町	2	藤野町	4	秦野市	26
伊勢原市	16	大和市	48	綾瀬市	21	茅ヶ崎市	71	寒川町	9
								合計	1896

【情報コーナー】

● ドラエモンのポケット

♪こんなものいいな・できたらいいな♪

【その1】 ものしりトーク(26号でおねだりされたもの)

ドラエモン:大ちゃんが欲しいっておねだりしてい物ができたよ。

大ちゃん:なにになに? 早く見せてよドラエモン。

ドラエモン:(ポケットをゴチャゴチャ) ほ～ら、これ、大ちゃんが26号で欲しいって言ってた「ものしりトーク」だよ。

大ちゃん:これって、使い方が難しいんじゃないの、
大ちゃんには無理だよ。

ドラエモン:簡単、簡単。ボタンはたった4つだけだし、タグをここに置いて、ここを押して・・・「ピー」、それからここを押しながら「ボク、ドラエモン、大ちゃんと違ってと～っても良い子です。友達になってね」。これで録音終わりだよ。あとは、このタグをポケットに入れて、この小さな機械を当てて、ボタンをおすと、人見知りのドラエモンだってどこでも自己紹介はOKだよ。

大ちゃん:ドラエモン! それ頂戴! ねえ～、頂戴!

※ ものしりトークは神奈川支部のミニ集会で操作体験などできます。大きさは携帯電話くらい。タグは冷凍しても選択しても大丈夫です。操作が簡単なので、洋服、テープ・CD、お薬、食品の管理、認識に便利です。他に簡単なメノ帳の機能もあります。(裏表紙の内側に広告があります。)

【その2】何でもメガネ(22号でおねだりされたもの)

大ちゃん:ねえ～ドラエモン、なんでもメガネまだできないの?

ドラエモン:なんでもメガネって??

大ちゃん:あれっ! 忘れてるの? 大ちゃんがだんだんテレビが見れなくなってきたって言ったら 2004 年にはなんとかするよ、って約束したじゃないか! (怒)

ドラエモン:ああ～、あれね。

大ちゃん:ああ～、あれじゃないよ! 忘れてたんだろう。(プン・プン)

ドラエモン:あれは来年だよお～。だけどね、三洋電機のほかにも試作品が完成したらしいから、もう少し待っててよ。その変わりに、もっといい情報教えてあげるから。

但し、これは絶対に秘密だよ。秘密がまもれるっ?

大ちゃん:何々、早く教えてよ。絶対誰にも喋らないから。

ドラエモン:これはね、NHKが開発してるんだけど、大ちゃんのように暗い場所では見えにくい人が見えるようになる物なんだ。真っ暗な所でも赤外線を使って見えるようにする装置は軍隊や夜行性の動物の観察などに使われているけど、それをカラーにして、昼間のような明るい画像にするというものなんだよ。

今はテレビカメラと液晶画面で試作されてるけど、これもゴーグルタイプでの実用化を目指しているらしいよ。

大ちゃん:そしたら、夜も歩けるの？それっていつどこで買えるの？

ドラエモン:大ちゃん、あわてないでよ！ 今開発してるんだから・・・。

【その3】どこでも誘導装置(21号でおねだりされたもの)

ドラエモン:大ちゃんにいいものあげようかなあ～。

大ちゃん:何？まだ何かあるの？

ドラエモン:大ちゃんが1人でどこへでも行けるといいなあ～、って言ってたじゃない。もう忘れたの？じゃあ～あげない！

大ちゃん:忘れてないよお～。(泣)1人であっちこっちいきたいよお～。

ドラエモン:うん、解った、解ったから泣かないで・ねっ。(ポケットをゴチョゴチョ) じゃ～～ん。何でも携帯電話、だよん。 れはね、GPSっていうのを使って、目的地の住所か電話番号を指定すると、そこまで音声誘導してくれるんだよ。自動車のカーナビと一緒になんだよ。

大ちゃん:それじゃ電話代が高くって僕には使えないじゃないか！

ドラエモン:電話は一回だけであとは電話代金なんていらないんだよ。

だけど、白杖は絶対忘れないでね、それと困ったときは人に聞く、これは絶対守ってよ。それと知らないところに行くときは、なるべくその場所の情報を集めてから行くんだよ。

大ちゃん:わ～い、何処にいこうかな・・・。

※AUがナビゲーション付携帯電話の発売を開始しました。これから、NTTドコモ、ボーダーフォンからも発売されるといいですね。又、動画携帯やテレビ携帯も合わせて使うと、もっと外出が楽になりそうです。期待しましょう。

● 第九回神奈川ロービジョンネットワーク研修会

神奈川県内の眼科医師、視能訓練士、歩行訓練士、生活指導員、教育関係者、誘導ボランティア、視覚障害者などロービジョンケアに関わる人で組織されているロービジョンネットワークの研修会が下記要綱で開催されます。

日時:2003年12月6日(土)17:00~20:00

会場:よこはまアーバンカレッジ

(ゆめおおおかオフィスタワー17階)

横浜市港南区上大岡西1-6-1

電話:045-841-5900

交通:市営地下鉄「上大岡」駅下車 徒歩3分程度

京浜急行「上大岡駅」下車 徒歩5分程度

内容:パメルディスカッション

「地域のロービジョンネットワーク」

パネリスト:安藤伸朗(新潟県)

佐渡一成(宮城県)

高野雅彦(神奈川県)

参加費:1000円

問合せ::神奈川県ロービジョンネットワーク事務局

(七沢ライトホーム)渡辺、末田

電話:046-249-2421 FAX:046-249-2411

E-mail klvn21c@alto.ocn.ne.jp

※ 会場では、拡大読書機、ルーペなどの展示もあります。

●市民公開講座「実用化間近い人工視覚」のご案内

網膜の視細胞が障害を受けると見えなくなりますが、その奥にある網膜神経節細胞が残っている場合、人工網膜で視覚が回復する可能性があります。われわれのグループは、数年後の完成を目指して人工網膜を開発中です。現在はまだ動物実験の段階ですが、ある程度の分解能が得られることが確かめられています。市民公開講座において、現在の状況と今後の見通しについて分かりやすくお話する予定です。お誘いあわせの上、奮ってご参加ください。

日時:2004年2月1日(日)14:00~16:00

会場:東京国際フォーラム ホールB7

東京都千代田区丸の内3-5-1 TEL:03-5221-9000

参加無料:当日、午後1時30分から受付を開始いたします。

プログラム

司会:田野保雄(大阪大学医学部眼科教授)

1. 網膜と人工視覚 三宅養三(名古屋大学医学部眼科教授)

2. 工学サイドから見た人工網膜の展望

八木 透(株)ニデック 人工視覚研究所所長)

3. 医学サイドから見た人工網膜の展望

不二門尚(大阪大学医学部眼科教授)

主催:厚生労働科学研究

“網膜刺激型電極による人工視覚システムの開発”研究班

共催:長寿科学振興財団

後援:日本学術会議感覚器医学研究連絡委員会

日本網膜色素変性症協会

お問合せ先:日本眼科手術学会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-2-4 浅井ビル 501

TEL:03-3811-0309 FAX:03-3811-0676

Email:gakkai@gold.livedoor.com

【投稿コーナー】

●デジカメウオッチング

川崎市 岩佐浩司

最近、デジカメ片手に観光スポットを回るようになった。きっかけは都内の高層ビルの展望台から夜景を撮ろうとしたとき、マニュアル撮影の設定が悪く、上手く撮れなかった。そこで近郊で練習をして腕を磨き？いつかまた訪れ、今度はきれいに撮りたいというのが願いであった。(夜景があまりにもきれいだったので・・・)

それからは時あるごとに被写体？を求めて出かけました。元町・中華街・外国人墓地・港の見える丘公園・山下公園・氷川丸・マリンタワー・三溪園・日本丸など、いくつか訪れました。

もちろん目的が撮影ですから、三脚を構えバッチリ撮影してきました。成果は・・・良く撮れているものもありますが、失敗も多いですね。とくにマリンタワーの撮影が難しいです。どういう訳か垂直に撮れないのです。これが・・・

マリンタワーを探したとき、なかなか見つからず、道行く人に“この辺にマリンタワーありませんか？”と尋ねると、“そこに建っていますよ？”指差した方向を見上げると、そこには巨大な塔が立っていた・・・なんてこともありました。小さいころよく登った灯台も長年の月日で場所もわからなくなっていたのです。



また「三溪園」も横浜駅から近い場所にあると、長い間思っていたのですが、本牧のほうであることを知り、土地勘？が疎いことに気が付きました。

そのほか、いろいろな場所を訪れるに、あらためて正確な所在地を知りました。と同時に、自分がいかにそのような場所にあまり目を向けない人間であったか、心に余裕がなかったかと知らされました。(いつでも回れるという思いもあったのですが・・・)

「三溪園」では障害者手帳を提示して、入園料を無料にさせていただきました。また、日本丸が随分近いところにあるので驚きました。

これからも季節ごとにいろいろな場所を訪れ、写真を撮ったりして、小さな感動を見つけようと思った次第です。



※デジカメというものは手軽さがウリだが意外と融通が利かない。まずレリーズが使えない。デジカメ用の三脚も心もとない。シャッターを押したあとは良いのだが押す瞬間にどうしても手がブレる。また、明るい場所では液晶モニターがまったく見えず、被写体の大きさやバランスを取るのが難しい。明るいときは良いが撮影条件が異なると、それなりの技術・熟練度が要求されるというのが実感であった。(メーカーや機種にもよるのですが・・・と、道具のせいにする。)

しかし、撮った画像をパソコンに取り込んでそれが良く写っていると、やはりそれなりの楽しさがあり、なんとなくカメラが趣味という人の気持ちがわかるような思いがした。

(2003年11月16日 記)

●私の喜び

平塚市 山内 則子

ある夏の日一本の電話がありました。幼なじみからでした。この友人とは10数年前一緒にテープ雑誌を出していました。昔話や楽器・音楽の話など2～30分話したでしょうか、そんな中で、「俺はもう三味線もギターもみんなやめた。今は、ハモニカにこっているんだよ。」って言われたんです。「ハモニカ？いいねえ。」って言いましたら、「そうだあんた持っているよね。」って言うんです。ある、引き出しの中に在るんです。「私もやりたいねえ。」ということでそこから話がどんどん進んで、会に入ることになりました。しかし、月に2回、往復4時間をかけて二俣川まで通うのは大変じゃないかと思ったんですが、好きなものは何とでもなるんですね。何回か行ってみたんですけど実に楽しいんです。

行ってみますと、全然吹けない人、譜面がなくてはだめな人、私たちは譜面があろうがなかろうが見えないから、頭の中に覚えたメロディーを練習しなくてはなりません。

そこで、家へ帰ってきて教えてもらわなきゃならないんですね。で、彼がレッスン用に懇切丁寧にハモニカで吹いたり、練習のしかたなどもテープを作ってくれましたので、何とかちょっとした難しい曲も吹けるようになりました。

そんな中、今度は「旦那も連れてきたらどうだ。」という話になりまして、一緒に行くことになりました。うちのは、吹けない吹けないと言いながらも、吹けるし。音楽関係ですから、私が練習していると、「それは違う、そうじゃない、こうだ。かしてみろ。」ってということで、二人で練習もできるようになりました。

そんなこんなしているうちに、ハモニカが、1本が2本、2本が3本・4本と私の手の中に、何本も入るようになりました。

そうすると吹くのがだんだん楽しくなりまして、毎日少しずつ吹きながら、これはこのハーモニカでは吹けない、こっちだな。これはこれとこれではダメだ、とか、自分でどんどん分かるようになりました。

一番嬉しいのは、ハモニカを取り替えたときに、ぱっとその音に行けるこ

となんですね、音符に入れるということなんです。それが私にとって一番嬉しいことで、彼に言いましたら、「それは曲を知っているからなんだよ。」って言われましたけど、そんなもんじゃないんじゃないかと思うんですけど、その辺はお一人お一人考え方が違いますから何ともいえませんが、それが私にとって一番嬉しいことです。

これから私は、このハモニカをボランティア活動の中に入れて行ければなあと思っております。お年寄りにはハモニカが好きです。そして昔の歌が好きです。枯れすすき、船頭小唄、かごの鳥、そして軍歌、童謡などなど。お年寄りの心の中に思い出がいっぱい詰まっている曲を吹いて、少しでもお年寄りが慰められたら、私は本当に幸せだと思っております。

小さい頃からハモニカを大事に大事にしまってきて、今ようやく皆さんの前で吹けるようになることが、ずっと吹いていてよかったなあと思っております。このハモニカを通して、多くの方との交流を広げて行ければ幸いです。そういう大きな希望を持って、これから何年続くか分かりませんが、二俣川に通うのを楽しみに頑張ってゆきます。皆さん私が少しでも上手になるように応援して下さい。

(編集部注;これは、録音テープを活字に起こした物です。)

●手を上げ声を出そう

～出来たてホッカホカの“誘導ブロック”～

平成15年10月19日

横浜市・岸 利勝

遂に完成!! “号外”並みの出来事? JR十日市場駅前バスセンターの、駅南出口からバス乗場(乗場①～⑦迄)までの間で、誘導ブロックの敷設工事が行われておりましたが、10月10日工事が終了待望の誘導ブロックがお目見え。敷設された状態を聞いた所、眼にも鮮やかなピカピカに光った真新しい黄色のラインを描いて、駅前バスセンターを囲むように敷設されたとの事、出来たてホッカホカの“誘導ブロック”が完成!! 思わず“号外”と叫びたいほど大変嬉しい出来事で、皆さんと共にこの喜びを分かち合いたいと思っております。

そんなに喜ぶのは少しおかしいのでは? という声が聞こえてきそうですね、そうですその通りです。自分でも少し変だと思いますが? 最近では殆どの駅や駅前バスセンター及び公共敷設のある場所では、誘導ブロックが敷設されており、今更目新しい出来事では無い為だと思います。皆さんが利用してる駅やバスセンターは如何ですか? 誘導ブロックが敷設されている事と思いますが、しかし残念ながらまだまだ敷設されて無い場所

が多くあり、決して十分だとは思えません。

言うまでもなくJR十日市場駅前バスセンターもその内の1カ所で、私が毎日利用してる駅前バスセンターは、今まで不便と危険を感じての利用でしたが、これからは暗くなっても柱や街灯、立て看板等々の障害物に気を使わず、白杖で誘導ブロックに添って行けば安心してバス乗場まで行ける。暗くて人混の中を見えにくく、殆ど見えない状態の眼に気合を入れ最大限に活動させ、四方八方にアンテナを張りめぐらし、気を配りながらの歩行であった為大助かりです。敷設されていて当然のような誘導ブロックは小さな出来事です、特に始めての場所や様子の分からないは所などで、歩行時に誘導ブロックの敷設を確認出来ると精神的にホッとします。 そんな訳で私の中かでは大変大きな出来事であり喜びでした。 しかし良く考えてみると今まで誘導ブロックの敷設が無かったのが不思議な気がします。なぜなら十日市場にもRP(網膜色素変性症)に限らず視覚障害者は住んでいると思われませんが、少なく又誰も手を上げ声を出す人がいなかった為かも知れませんか？ 十日市場に限らず何処へ行っても白杖を持って出掛けてる人に、殆ど出会うことが無いからです。 そうではなく本当の所皆さんが出掛けて、各方面で活躍している時に私が出掛けてないのかも知れませんか？ それとも眼の悪い、いわゆる私達のような視覚障害者が少ないのかも知れませんか？ そうであってくれば嬉しい事です？ いずれにせよ視覚を含めた障害者が、少なければ少ない程いいのですが、そして障害者という言葉が不要になれば……と願ってます。

少し話が脱線してしまいましたが誘導ブロック敷設の経緯は、私が十日市場に転居しやっと落ち着き、周辺の様子にも慣れてきたのですが、出掛ける為南口駅前バスセンターからバスを利用するようになり、夏は陽が高く午後6～7時頃まで明るいのでそれ程気にならなかったのですが、何かおかしいと思った所駅出口からバス乗場へ行く途中まで誘導ブロックが有るのですが、肝心なその先バスセンターの方向に曲がる所から、バス乗場までと降車場の間に誘導ブロックの無いことに気づき、日常生活に於いて自分が不便を感じ、あったらいいのにと必要性を感じた時. JRPSの目標として『私たち自身で………生活の質の向上を』の精神に基づき、一個人の要望では無理かも知れませんが、可能か不可能か、まず自分が手を上げ声を出さなければと思い、とにかく誘導ブロック敷設の為行動開始と言っても、皆さんの手を借りなければ自分一人では出来ず又、話を何処へ持って行って良いのか見当もつかず、取合えず市(私の場合緑区)の保健福祉センターに問合せ、そこから色々調べてもらった結果分かった事は、

“誘導ブロック”の行政管轄が市の土木事務所であることが判明、早速電話で、緑土木事務所へ出掛けて行かなければならないのか、電話で良いのかを問合せた結果、電話でも良いとのことでしたので、要望内容の駅南出口からバスセンターのバス乗場と、降車場までの間の誘導ブロック敷設状況と誘導ブロックの必要性(視覚障害者のみならず高齢者や未就学児などにも役立つ)を説明した上で、“誘導ブロックの敷設要望”をお願いした所気持ち良く受理していただき、こんなにスムーズにいつて本当に敷設してくれるのか疑問で、敷設が完成するのを見ないことにはなんとも言えませんでした。

6月10日に要望の電話を入れ、時期的にタイミングが良かったのか、それから1週間後の6月17日、緑土木事務所の担当者から私の家に電話があり、会議で予算が通り“誘導ブロックの設置”が決定され、市から予算がおり次第工事に取り掛かるが、敷設には予算がおり敷設場所の設計をし、それを元に運行バス会社(市営、東急、神奈川中央の三社)と周辺の商店や住民に対し説明を行い、全ての了解を得てから誘導ブロック敷設の施工になるので、完成は早くて10月末頃になってしまう旨の連絡がありました。

この件について当初役所の仕事だし、一個人の要望では無理かもしれないと思い、取合えず始めに話を聞いてくれるのが精一杯かと、その後何回かの要望をしなければと思っていましたので意外でした。

いつもこんなにスムーズに事が運ぶとは限らず、駄目でもともと事のきっかけになれば良いので、どんな事でも勇気を出し、まず“手を上げ声をだす”事が何より重要な事と、改めて認識した次第です。

尚、今回の誘導ブロック敷設に尽力していただいた緑土木事務所関係者の皆様方、有難う御座いました。

●ウッチャンの体験記シリーズ

～ウッチャンとかんなちゃんの看護日記～

横須賀 内田 知

9月のミニ集会の当日の朝。その日は、ウッチャンの家の近くにある神社の秋祭りの日でもあった。オフクロさんが妹と、孫が来るのが何時頃になるかなんて話を、電話でしていた。

その会話を、聞きながら、(おれも祭にいきてえなあ。)と、ウッチャンは想っていた。だが、ミニ集会と重なっている。(そういやあ、去年も重なって、祭に行けなかったもんなあ。)と、あきらめながら出掛ける支度を始めてい

た。

ようやく話がまとまったのか、話し声がしなくなった。次の瞬間、「オニーチャン、オニーチャン。」と、ウッチャンを呼ぶオククロサンの叫ぶような声。何事かと居間に行ってみると、急に気分が悪くなり、吐き気がすると、受話器を持ったまま頭を、テーブルの上に、うつぶせるようにしていた。

オククロサンは、苦しそうな声で、状況を、ウッチャンに説明した。すると、ウッチャンは、あわてるようすもなく、受話器を電話機にもどし、洗面器を用意したのである。そして背中をさすりながら、「まったく、いつも言っているのに、また一人だけでウマイものを食べたりすんからだ。朝、ナニ食べたんだよ。」と、冗談まじりに聞くと、「ココアを飲んだだけ。」と、苦しそうにオククロサンが応えた。それに対して、「ココア？　なんでそんなもん朝から飲むんだよ。明日から朝はココアはダメだからな。」とおこるようにウッチャンは言った。

苦しそうにしている親に対して、なんたる言いぐさ。そしてふてくされたような態度。だがこれには理由があった。それは、ウッチャンの母親は、体質なのか、神経的なものなのか胃腸が弱く、刺激の強いものを食べると、腹痛をおこしたり、嘔吐したりすることがよくあったのだ。

だからウッチャンの子供の頃、外食してもそばやうどんと言ったものしか食べないオククロサンだった。そして、突然気分が悪くなり、寝込むこともしばしば。理由は、血圧が異常に上がったたり下がったりすることでおきていた。これも神経的なことかららしいのだ。とにかく、しばらく静かに横になっていればおさまってくる。

子供の頃から、くりかえされてきた状況。母親が具合が悪くなった時、何をしたらいいのかは、十分にわかっていた。だから今回もあまく考えていたウッチャンだった。

しばらくすると、吐くだけはいたのか落ち着いてきた母親に、「ココアだけ飲んだの？」と聞くと、「そう。」と返事。「とにかく、飲みなれてないものを、朝から飲むんじゃないって。」と強い口調で話すウッチャン。

それを聞きながらも、「お水を持って来て。」とたのむ母親の言葉に、「わかった」と返事をして、水を取りに台所へ。

水を持ってくると、「ホレ、水。」と、手渡そうとすると、「ドコ？」の声。「ナニ言ってんだよ、見えないのはオレの方だぜ。」と、すこし声を荒げるウッチャン。すると、「目をあけられない、あけたらめまいがするし、頭もあげられない。」の返事に、すこしドキッとするウッチャンだった。

それでも冷静にテーブルにコップを置くと、頭と腕、そして手渡す手の位

置を手探りで確認して、コップを左手にもたせた。手渡されたコップをなんとか口に運び、ほんのすこし飲んだ瞬間、コップを持ったまま嘔吐してしまったオフクロサン。あわてるウッチャン。それでもコップを手から離すと、口元に手を持っていき、どの程度嘔吐したのかを調べた。あまり汚れていないのを確認。フキンでテーブルをふくと、テーブルに頭を置いたままのオフクロサンに、「このままじゃまずいから、横にならなきゃ。」と声をかけた。すると、「ダメ、頭を動かしたら、血管がきれちゃう。」と返事をするオフクロサン。この言葉に、あきれのをとおりこして、母親を、怒るように、「なんだって、ふざけたこと言ってんじゃあねえ、このままじゃまずいし、自分がつらいだろうが。」と言って、母親の頭をかかえるようにして、その場に寝かせるウッチャン。毛布を持ってきて、オフクロサンにかけると、あらためてテーブルの上をふいて、洗面器を洗って、タオルも用意して母親のそばに置いた。

時間にして、10分にも満たない間の出来事だった。そして、胃の中はカラッポなのに、嘔吐をくりかえす母親の背中をさすりながら(このままでは、いけない。救急車を呼ぶしかないか)と考え始めた。

しかし、まずは妹に知らせなければと、仕事先に電話をして、状況を説明。ウッチャンの家の近所にいるいとお姉さんに、来て貰うように、連絡する事を頼んだ。

妹は、自分も仕事を早引きさせてもらい、なるべく早く家に行くと話した。そして、ミニ集会に行けない事を荒井さんに連絡するウッチャン。

そんな中、何も知らずに甥っ子たちがやって来て、声をそろえて、「おばあちゃん！いるう。」と言いながら家に上がってきた。

おばあさんの苦しそうにしている姿を見て驚く二人、「どうしたの？」と心配そうに、ウッチャンに聞いてきた。

「チョット、気分が悪くなって、寝ているから静かにしてあげてよ。」と応えるウッチャン。そこへ、いとお姉さんが来てくれたのである。事情はわかっているのか、アイサツもそこそこに、家に上がると横になっているオフクロサンにかけより、「おばさん、だいじょうぶ？」と声をかけた。

その声に、反応したオフクロサンの第一声。「アー、お兄ちゃんが、呼んだの？いそがしいのに悪いねえ。」「おれ知らないよ。かんなが電話したんじゃないの？」と、トボケて返事をしたが、心の中では、(クソツタレ)と怒りにも似た思いが、こみ上げてきて、心の中は、(余計なことしたってのかよ、だまって寝てろっての)と、完全に、キレてしまっていたウッチャンだった。

お姉さんは、ウッチャンの気持ちを察したのか、なだめるように話しかけ、あらためてこれまでの状況を尋ねた。

聞き終わると、「大事になる前に病院に行った方がいいから、救急車呼んだ方がいいよ。」と話す叔母の言葉に、「今、動いたら血管が切れてしまうから、ダメ。」とオフクロサンが、横から口をはさんだ。

このひと言に、愕くお姉さん。

「ワケのわかんない事言ってさ、言うこと聞かないんだオフクロ。」と、こまったように返事をするウッチャン。

ウッチャンの母親は、思いこんでしまうと、他人が勘違いや間違いを指摘してもダメ。自分自信が気づかないと納得しない人なのである。まして、元看護婦、苦しい中自分の症状を、自己診断してしまっているらしく、言うことを聞かない状態になっていたのだ。

ウッチャン同様、オフクロサンの性格をわかっているお姉さんは、まずは、ウッチャンをなだめ、祭に行きたがっている甥っ子二人に、ハッピーを着せて、祭に行くように言った。

こうなると、おばあさんを心配していた素振りはどこへやら、はしゃぎだしたのである。

これに、「ウルセエ！」と、八つ当たりして怒鳴るウッチャン。

すると、オフクロサンの孫をかばうひと言、もう完全に、意味もなくキレてしまったウッチャンだった。しかし、「さとり、オマエが大声だしてどうすんの。」と、お姉さんに、怒られるウッチャン。

その後、しばらく母親のそばにいてくれたお姉さんが、帰る際、「何かあれば、電話してね。」と言ってくれた。でてくる言葉は、「ありがとう。」だけ、それでも何回も、お礼を言って送りだすウッチャンでした。

お姉さんが帰った後、母親の指示で、冷水でタオルをぬらし、首すじに当てて冷やしたり、背中をさすったりしていた。

どのくらい時間が過ぎただろうか。「おにいちゃん、ママはあ？」と妹の声。

あまりに突然だったので、「エッ！」としか返事ができずにいたウッチャン。気が付けば妹は、母親のそばに居て、「ママ、だいじょうぶ？」と母親に声をかけていた。自分の言葉に、返事が帰ってきたのに安心した妹は、「お兄ちゃん、なんで救急車呼ばないの。なんかあったらどうすんの。」とウッチャンをせめた。

だまっただまのウッチャン。するとオフクロサンが、力無い声で、すべてを

説明したのだった。話を聞き終わると、今度は母親に、怒る妹。それをなだめるウッチャン。なだめながら、（アア、おれと同じかあ、兄妹だなあ」と心の中で苦笑していた。いくら言ってもダメなのは、妹もわかっているのか、「お兄ちゃんが言ってもダメならどうしようもないね。」と、説得するのを、簡単にあきらめる妹だった。

そして、「お兄ちゃん、たいへんだったでしょう。後は私が見てるから、部屋で休んでていいよ。」と声をかけた。「そうかあ、わるいなあ。」と返事をして、自分の部屋へ。

イスに座り、ブーツとしてしていると、妹がコーヒーを入れて持ってきてくれた。「アリガトウ。オマエ仕事の方は？」と聞くと、「明日は、元々休みの日だし、もしかしたらと思って2～3日休めるように頼んで来たから、だいじょうぶだよ。」と応える妹。

「しかし、言うこときかないオフクロだよ。」のウッチャンの言葉に、「人の言うこと、きかないのはお兄ちゃんもいっしょ。ハハハ。」と、笑いながら話す妹に、「ウルセエ、アンタに言われたくないねえ。オマエも同類じゃあ。」と言い返すウッチャン。

すると、あまりにも素直に、「そうだねえ。」と応える妹。「コラッ、簡単に納得すんな。」と、ツッコミ返すと、「兄妹だからねえ。」のひと言。

「そうだなあ。」と返事をする、「簡単に、納得すんなあ。」の妹のツッコミ返しの言葉。「ヘッヘ、マネすんなあ。」とニガ笑いするウッチャン。これに反応するように、小声で笑う妹。頼りになるかならないかは別として、そばに居ると心強いパートナーとなる。その名は、我が妹かなちゃん！

この兄にして、この妹あり。まるで、お笑いコトのような、ウッチャンとかんなちゃんの、まだまだ介護とは言えない、しかし、母を看病する苦闘の日々が、この日から始まったのである。

オフクロサンが、倒れた日の夕方。何も知らずに、仕事から帰ってきた父親に、事情を説明、愕く父親。当然、「病院へ・・・。」と言ってくる。

これまた事情を、話すと、ため息をつきながら納得するしかない父親だったのである。

そこへ、祭に行っていた甥っ子が、楽しそうに帰って来た。ところが、深刻な顔をしている大人を見て、「ただいま。」と小声で言いながら、家に上がってきた。「お祭り、おもしろかったか。」とウッチャンが聞くと、「ウン。」と小さく応えた。その時、子供でもわかるほどの重たい空気が、家中にながれていたのです。

夕食の支度をしながら妹は、子供に、夕食後にいっしょに夜店を見物に行けないと話していた。それを、だまって聞いていたウッチャンは、「勇気、オマエ元気のめんどろチャント見れるよな。」と聞くと、「ウン。」と返事。「ウンじゃないだろ。」とひと言。これに、「ハイ。」と言い直す勇気。

「ヨシ。」と言って、「二人でも、だいじょうぶだよ。」と妹に話すウッチャン。その言葉に、「気を付けるんだよ。」と、子供たちに話す妹。二人はうれしそうに、「ハイ。」と、そろって返事をした。

早々に、食事をすませ出掛けていく甥っ子二人。

つらそうにして、言葉も口にできないオフクロサンなのだが、孫が出掛ける時には、「気を付けていくのよ。」と声を二人にかけたのです。

帰って来たら来たで、「おもしろかった？いっしょに行けなくてゴメンネ。」と、話かけるオフクロサン。

めまいがして、目をあけられない、それどころか、何回となく嘔吐を繰り返している状態なのに、孫にたいしては、こうも積極的に、口を開く事ができるのは、なぜだろうと、不思議に思うウッチャンでした。

さて、その日の夜は、遊び疲れていたのか甥っ子たちは、早々に寝てしまい、9時を過ぎると、母親が寝ている居間と台所を行き来する妹の足音がするだけだった。

そして、一日が終わり、日付が変わろうとしていた時、ウッチャンの部屋では、ウッチャンと妹が、これからどうするかを話し合っていた。

二人には、母親の身体が何が原因で悪くなったのか、どういう状態なのかわからない。ただ、脳梗塞か、それに近い状態ではないのか、だとすれば、今すぐにでも病院へ。と言う考えは共通していた。

そしてもう一つ、最近の医療事故の多さが気にかかり、救急車を呼ぶのはいいが、とんでもない所に行かれたらどうしよう。などと思っていた。

考えれば考えるほど、思いは、悪い方向へいってしまう二人だったので。

そんな中。二人の出した結論は、母親が信頼している、かかりつけの医院の先生に、往診に来て貰うように頼んでみる事だけ。この時の二人には、それ以上の方法を、思いつく力はなかったのである。

そして次の日。日曜日だと言うのに、早起きの甥っ子たち。

早朝から、花火の音はするは、祭ばやしが聞こえてくるとなれば、早起きするのも当然と言うべきだろうか。小学4年と2年の男の子、ワンパクざかり。大人の気持ちなどわかるはずもなく、だだをこねて妹をこまらせてい

た。

ウッチャンは、「二人が居ない方が静かでいい、行かせてやんなよ。」と妹に話した。「そうだね。」と応えて、「あんたたち、これから言うこと、チャント守るんだよ。」となにやら言い聞かせて、外へ送り出したのでした。

そして、かかりつけの医院に電話する妹。ところがだれも出ない。「お兄ちゃん、どうする?」「どうするって、おかしいなあ、日曜日でもやっているはずなんだけど。」とウッチャン。「お祭りだから、休みにしたんじゃない。と妹が応えた。

何も言えないウッチャン。すると、「先生ントコ行ってくる。いなきやいないで、郵便箱の中に手紙入れとく。今はそれしかない、行って来る。その間、ママみてて。」と言って飛び出して行く妹。

そして待つこと数分、妹が戻ってきたのである。

「ダメ、いない。」と、妹のひと言。「手紙は。」の問いかけに、「一応、入れといた。」妹の力ない返事に、言葉を返すことができないウッチャン。

しかし、オフクロサンには、強い口調で話し始めた。

「今、一番つらいのは、オフクロ自身なんだよ。がまんしてよくなるなら、がまんしてりゃいい。でもよくなってこないじゃんか。今までとは、違うのは自分が一番わかっているはず。このままでいいわけない、心配でたまらない。何がどうなってるのかもわかんない、なにをすればいいのかもわかんない。ただそばにいただけ。それがどれだけ不安で、つらいかわかってくれてもいいだろう。」「子供の世話、おれやおやじの世話までして、疲れてんのに心配で寝られない。タベ、自分のそばにいてくれた人間の気持ちを考えろっての。」

押し黙ったままのおふくろさん。返事のないことを、気にする事もなく、自分の部屋に行ってしまうウッチャン。

後を追いかけるように、妹がやって来て、「お兄ちゃん、どうする。」との問いかけに、「連絡待ちってとこかな、それよりオフクロすこしは、水分とれてんの。」「すこしはね。でもしばらくするとはいちゃう、はくものないのに、はきけがするのって、つらいんだよね。」と応える妹。「それでも、水分はとらせないと。後でつらいのはわかってて言うこときかないんだからさ。」「そうだけど。」の妹の言葉に、「まあいい、ノドがかわけばイヤでものまなきやなんないんだ。とにかくお昼頃までようすをみるしかないよ。」と話すウッチャン。

「ウーン、それよりタベよ、ママに起こされる事何回かあったけど、けっこう寝れたよ。」の話に、「ハハハ、おれもグッスリだったよ、心配でも寝たくな

りや眠ってしまうって、心配で夜寝れないってのは、半分はウソだよ。ハハハ。」と言うウッチャン。

すると、「それで、よくあんなえらそうな事言うんだからね。」とあきれながら応える妹。「なんだよ、どうしていいかわかんないし、心配なのは、うそじゃないんだからいいじゃんか。」と言い返すウッチャン。「ワカッタ、わかった。」と、笑いながら返事をする妹だった。

電話が鳴るたびに、先生からかと期待したが連絡はなかったのです。

夜になり、何となく、病院へと話すが、言うことをきかない。明日は、平常どりの診療のはず、先生に来てもらえなかったら、イヤでも救急車だと、決めていたウッチャンだったのである。

そして次の日。子供たちを学校へ送り出した後、オフクロサンに、先生に来てもらえないとわかった時点で、救急車を呼ぶからと、断言するウッチャン。それには、「ワカッタ。」と返事をするオフクロサン。

8時をすこし過ぎた時、医院からの電話。すぐには無理だが、午後には行けると返事。母親の症状を説明して電話を切った妹。

「先生、来てくれるって、来てくれるって。」と母親とウッチャンに話す。その声は、かすかにふるえているように感じたウッチャンだった。

そして、往診に来てくれた先生の診断は、頭位めまい症(とういめまい症)と言う病気だと説明。

(めまいは、わかるけど、とういってなんだ、とういって、あのとういかな？どこか遠いところでめまいがするのか。なんだかなあ)と真剣に悩むウッチャン。

そして、たまたまタベ電話があった友人から聞いていた、(めにえる)にも、「ナニ？ムニエル？ なんだ料理みたいなのは。」「アホ、ムじゃない、メだよメ。」と言われたのを思い出していた。

先生が、「今は、無理して動かすより、クスリを使って、はきけとめまいをおさめるようにする方がいい。人それぞれだけど、起きてもだいじょうぶになるまで、時間がかかる場合もある。と説明。」

ウッチャンと妹は、脳梗塞のような状態ではないことだけで十分だった。

「なんで、すぐ病院へいかなかったのか。」と先生に聞かれ、ウッチャンと妹は、母親のガンコに言うことを聞かなかったことを先生におもいきり訴えた。すると、「無理して、何の得があるの。自分がつらいだけでしょう。」と先生の言葉。すると妹は、「モット、キツーク言ってください。」と先生をけしかけるように言った。

いつもなら、まけじと何かを口にするウッチャンなのだが、頭の中は、意味不明の病名でいっぱい。それと入院した方がいいと、言ってくれたらなどと考えていたために、無口になってしまったのである。

(病は気から)などと言われる事があるが、点滴注射みたいなものをしてもらっただけなのに、水分をとっても、後ではきけを感じるようすもなくなってきていた。

「先生の顔見るだけで、オフクロにはクスリなんですよ。」と、冗談で言ったウッチャンなのだが、ほんとうにクスリになったようなのです。

さて、どこか気持ちが楽になったのか、その夜には、オフクロのせいで前日のタイガース優勝をテレビで見ることができなかったのを、母親にグチル、ウッチャンがいた。

それを、そばで見ていた甥っ子の元気が、台所で後かたづけをしている妹に「目がみえないのに、テレビが見れなかったって、さとるにいちちゃんもんくいってるよ。なんかヘン。」と、話しかけた。「いいのいいの、ヘンなんだから。」と、応える妹。「ウッソー、ヘンなの。」と元気。「目見えないのに、テレビや映画がスキなのってヘンでしょう。アッ、もしかしたらほんとうは、目が見えてるかもよ。みんなをだましているかもね。」と言う妹に、「エッ、見えてんの、そう言えば、時々、見えないのに、ナゼわかんのかなって時がある。あれって見えてんのかなあ。」と元気の言葉に、笑いながら、「とにかく、さとるにいちちゃんは、目が見える見えないじゃなくて、ヘンなおじさんなの。」と応える妹だった。「そうかあ。」と納得する元気。

この会話が聞こえていたウッチャンは、「オイ、カンタンに納得するんじゃない。」と、言葉を返す。

この光景を見ていたオフクロサンが、かすかに笑ったのに、気が付くウッチャン。(これでいい、まずはこれでいいかもしれない)と思うウッチャンだったのです。

かかりつけの医院の先生に、往診に来て貰い、多少はホットしたウッチャンとかんなちゃん。初めて聞く病名に困惑した二人だが、後遺症が残らなければ、病名などにこだわる必要はないと考えていた。

先生に総合病院での検査、特に耳鼻科での診療と検査をするようにと指示されていた。すこしでも早くと思う、あせる気持ちをおさえ、二人の看病が始まったのです。

妹が仕事を休んでいた時はよかったのだが、仕事に行くようになってか

らがタイヘン。あわただしい朝が、ウッチャンの大きな声とともに、毎日くりかえされたのである。ウッチャンの朝は、何がなんでもコーヒーを飲んでからじゃないと何にもしない。だから、少し早めに起きて、コーヒーを飲んでからみんなを起こす。ところが、これが起きないのだ。当然のごとく、声がだんだん大きくなる。「オハヨー、時間だよ。」から始まり、「7時過ぎたぞ起きろって。」となり、「かな、オイオキロッテ。勇気、元気、ホレッ！オキロオ。起きないとデコピンだぞう。」。それで、甥っ子二人は起き出すのだが、妹は、「ウーン、わかったあ」と、返事をするのだが、起きてこない。

「かなあ、もう30分になるぞう。」これで、やっと起きだし、一番遅く起きたのに、「何やってんの、早く支度しなさい。」などと、子供に怒鳴る妹。「オマエが、一番寝坊してんのに、えらそうに。」とウッチャン。「そうさそうさ。」と連呼する甥っ子。「ダメレィ、オマエらも、早くメシ食え。」と、しかりつけるようなウッチャンの声。

オフクロサンは、「勇気、元気、忘れ物ないようにね。」と孫に声をかける。時には、学校からの手紙を妹に差し出し、「なんで昨日出さなかったの、後で見るとそこにおいときなさい。」としかられる甥っ子。そこへ、よせばいいのにウッチャンが、「なんだ、お兄ちゃんがみてやろうか。」と口をはさむ。「エッ、お兄ちゃんみえるのお。」と驚く甥っ子。手渡された手紙をマジマジみながら、「これはだなあ・・・。」と言葉をつづけようとするウッチャンに、「お兄ちゃん、いそがしい時に、アソブんじゃないの。今、頭ン中に浮かんだ事口にしたら、お兄ちゃんの夕食なしだからねえ。」と妹のひと言。「ハハハ、スンマセン。」と、謝るウッチャン。

そばで見ていた甥っ子二人、こらえるように、クスクス笑っている。それに気づく妹、「アンタたち、支度できてんの。」と、強い口調でひと言。二人そろって、「ハーイ。」の返事。「いいねえ、なかなかの返事だな。」と、よけいなひと言に、妹にまたまた怒られるウッチャン。あわただしい中にあっても、家族がいればこそその情景なのかもしれない。

車で学校まで送る妹。送り届けて帰ってくると、台所で立ったまま食事をすませ、「お兄ちゃん、後はヨロシク。」と言って、仕事に行く妹。流しにっぱいの食器を洗い、母親にクスリを飲ませ、洗濯をして干すウッチャン。ほとんど毎日くりかえされた朝の光景だった。

夕方まで、ウッチャンとオフクロサン、二人だけで過ごすことになる。

オフクロサンは、ウッチャンが何かをしようとしたり、頼み事があって、声を発すると、かならず最後に、「迷惑かけるねえ。」「わるいねえ。」「すまないねえ。」のひと言がある。そのたびに、「気にするな。」あまりにもしつこく

言うと、「うるさいなあ、だまって寝てな。」なんて言い返すこともあった。

ライトホーム退所後、家族の反対を押し切り、一人暮らしを始めた。プータロー生活をできるほど経済的な余裕があるわけでもなかったが、一人暮らしをする理由の中に、両親が元気な間に、特に、母親が元気な内に、この身体に身につけ覚えさせておかなければという思いがウッチャンの中にあった。

世間は、高齢社会について、介護について、これからどうなる、どうするなんて騒いでいる。高齢者ではないが、ライトホームの生活の中で、障害のある身体を介護する大変さとむずかしさを身近に感じていたウッチャン。

これからの生活の中で、収入を得ることを身につけるより、家庭の中でこのことを身につけることが重要に思えたウッチャン。

考えたくはないが、あまり健康ではない母親の身体が気になっていた。もしも、何かの理由で、親が倒れた時、自分の障害を理由に、なにもできないと思われ、それを心配して、よけいな心労を与えたくない。

ましてや、ウッチャン自身がうろたえて、何もできない状態になることがいやだった。

（頭の悪いオレには、身体に覚え込ませる必要がある。オフクロが元気な時にしかできない。だとしたら今だな。とにかく実践あるのみ。それに、おれの考えや生活ぶりに、陰口言われても、すこし難聴で聞こえないし。後ろ指さされても全盲だから見えない、だいたい後ろで指さされたんじゃ、晴眼者だってわかんないよなあ。だったら気にしない気にしない！。）と、ウッチャン流結論に達してしまっていたのである。

この決して正しくない結論によって、身につけた力を、実践するウッチャン。だが、（こんなに早く、来なくてもいいじゃんか）の思いは拭いきれなかった。

これは、母親も同じようなものなのだろう。はきけはおさまり、めまいはすこしづつなくなって来た。しかし、体を起こせる状態まではいかない。となれば、トイレに行けるはずもなく、紙おむつをしなければならない。おむつの交換をウッチャンにさせるのが忍びないのか、自分でやろうとする。無理してやるものだから、あとでつらくなる。ウッチャンに支えられトイレに行けるようになるまで、それは何度となくくりかえされるのでした。

こればかりは、「気にしている場合か。」と言えず、母親の思いを息子として受け入れるしかなかったのだ。

さて、甥っ子たちが帰ってきての夕方。どこの家庭でも当たり前の情景が始まる。そして最後は、子供たちへの「早く寝なさい。」で終わる。他と違うのは、妹が留守番状態の夫に、夕食を届けに家に帰ってくることだろうか。

そして、夜11時を過ぎた頃、母親が倒れた日から日課となった兄妹の、チョットしたミーティングが始まる。もちろん、話の中心は母親の事。ところがある時期から、なんとかダイエーの優勝セールに行く方法はないものかと、相談することに終始するようになっていた。子供たちにまかせるかはまだいい。リハビリのつもりで、母親一人で留守番させるかなんてことを口にしていた。

そして出した結論が、病院になんとか行けるようにして、その帰りに寄ることにする。母親は、どっかで休ませるか、車の中て横にさせておく。ナントモ、とんでもない兄妹なのである。

しかし、相手がこの兄妹の母親であることも忘れてはいけないのだ。起きて食事をしたり、一人でトイレに行けるほどに回復したオフクロサン。ここまで回復したならだいじょうぶだと判断。病院に行くのをいつにするか相談する二人。しかし、診療してもらいたい先生の外来は週に一日だけ。その日にするしかないのだ。

こうなると、ダイエーの優勝が病院に行くすこし前に決まってほしいと願う二人。優勝してほしいのに、今日は勝つなよ。と祈り、負けて喜ぶウッチャン。この応援のせいでもないだろうが、優勝にもたつくダイエー。病院に行く予定日が、セール期間中と重なったのだ。

(病院に、行けるようになった、よかったよかった。)と、喜ぶ二人。しかし、半分は別のよかった。なのである。

喜び勇んで、ダイエーに行ったものの、イザとなれば、長い時間ホットけるはずもなく、ソコソコの時間でダイエーを後にした二人。しかし、母親の希望もあり、別のスーパーに立ち寄り食料品を買うことになった。

店内に入ると、カゴ付きのカートを見つけ、歩行器がわりになるからいいかもと、母親にカートを押させて買い物となった。まだ、多少のめまいもあり、歩くのがやっとなのおふくろさん。母親のスピードに合わせ店内を歩く。

家の外にでるのも久しぶり、買い物も久しぶり、まだまだ歩くのはつらそうだったが、あれやこれやと品定めをして、買い物を楽しんでいるように見えた。

ところが、カートにつかまって歩くのがよほど楽なのか、アッチにウロウロ、コッチにウロウロし始めたのである。気が付けば母親がいない。「アレッ、

いない、ママはどこ。」と妹。「おれに聞くな。」とウッチャン。「探してくる、待ってて。」と言って、探しに行く妹。

しばらくすると、すこし離れたところから、なにやってんの、一人で動いたらダメじゃん。」と妹の声。戻ってきた母親に、「なんかあったらどうすんだよ。」とウッチャンがひと言。

ところが、ニコニコしながら、「勇気と元気に、おかしでもとおもってねえ。それと、お兄ちゃんのも買ったからね。」これに思わず、「ありがとう。」と応えてしまうウッチャン。あわてて、「とにかく、一人で動くなって。」とひと言。

「かな、オフクロは俺たちの前を歩かせろ。後ろだとまたどっかに行くかもしれない。」これに、「そうだね。」と、返事をして、オフクロサンに前を歩くようにうながす妹。前を歩く母親に気をくばりながら歩く二人。ところが、チョット目を離すといなくなる。いくら注意してもダメ。「これいいねえ、スイスイ歩いてラクラク。」と、話すオフクロサン。

こんな調子だから、その後もいなくなる母親、その度に、妹に怒られながらもどってくる。そんなことがくりかえされている中、今度は、探しに行った妹が戻ってこない。 やっと、戻ってきた妹の第一声が、「お兄ちゃん、ママスゴイヨオ、こんなの見つけてさ、それに、この値段。こんなに安くなってんのそうないからね。」これには、「感心している場合かあ。」と、妹に怒りのひと言。

そして、「こんなことなら、ダイエーで、もう少しゆっくり見てくりゃよかったな。」と、母親に向けてぼやくウッチャン。すると、「アレ、ゆっくり見て来たんじゃないの、お母さんはだいじょうぶだから、いろいろ見ておいでって言ったのにねえ。」この言葉に、「ハイハイ、そうでしたね、すいませんね、気をつかわせて。」と、ふてくされて応えるウッチャン。すると、「かな、お兄ちゃん何おこってんの。」と、オフクロサン。これに、「シーラナイ。」と、トボケタ返事をする妹。「ホントに、ヘンナお兄ちゃんだよ。」とわらうオフクロサン。もう、うなだれてため息をつくしかないウッチャンでした。

次の日、ヒザが痛い足首が痛いのと、言い出したオフクロサン。「昨日、調子にのって歩くからだ。」と、言うウッチャンに、「イタイ、イタイ。」を、くりかして訴えるオフクロサン。「ワカッタヨオ、後でもんでやるよ。」と、応えると、「ワルイネエ。」の母親の返事に、(ワルイと思ってる声じゃないな、マッタクヨオ)と、思いながら台所へ。午前中の家事をすませ、オフクロサンを、マッサージするウッチャンでした。

話は前後するが、血圧の上昇とめまいが原因とわかった後、ウッチャン

は、あんま、マッサージの仕事をしている友人に、自分でもできるようなマッサージの方法を教えてもらい、母親が少しの時間でも起きていられるようになった頃から、30分ほどのマッサージを朝昼晩3回に分けてやっていたのです。

ここをこうかなとか、この辺をこうかななどと、考えながらのしろうとマッサージ。相手が息子となれば、あれやこれやと言うオフクロサン、「そこじゃない、もっと右。」とか言うのは当然となる。となれば、やっている方も、「ウルセエナ、教えて貰ったようにやってんだからだまってろ。」と、言い返すのも当然と言うべきか。ましてや、ウッチャンとその母親なのだ、売り言葉に買い言葉の会話になるのはごく自然なことかもしれない。

そんな中でも「足が痛い。」なのだから、むかつくウッチャンなのでした。

そんなこんなの役2ヶ月間。水分さえ取るのがやっとの状態から、家の中のことは多少はできるようになった。

夕食の時に、「オフクロにリハビリさせるつもりで作ってもらったんだ、味ワッテ食べろ。」とか、「だれが、作ったかヨーク考えて食べろよ、残すなよ。」など、甥っ子たちに言いながら食事ができるようになったのです。

11月に、少し入ったある日、妹と甥っ子たちは、たくさんの荷物とともに、オフクロが倒れる前の生活にもどっていった。

良き仲間、良き友人たちの良きアドバイスのおかげで乗り切ってこれた日々。そしてある時、「私たちにとっては、いい予行練習だとおもえばいいじゃん。」と言った我が妹、かなちゃん！ この存在あればこそその日々。

しかし、介護の本当のきびしさを、ウッチャンもかなちゃんも知らない。だが、負けられない戦いがいずれまたくるだろう。ウッチャン自身が背負った視覚障害と言う敵よりも、大きな敵が見え隠れしはじめた。勝つことより負けられない敵に、どこまで、ウッチャン流で立ち向かっていけるのだろうか。スゴーク心配なのです。

なんとかなるかな？ かなちゃんがいれば、でもウッチャンの妹だからなあ。

音声 IC タグレコーダ “ものしりトーク”

知りたい物に当てるだけ、録音したあなたの声で知らせます！

1. 特徴

- ① 知りたい物にタグをつけ、自分の声で録音。あとはリーダを当てるだけでいつでも録音した情報を取り出せます。
- ② 簡単操作のメモ録、メモの後付けなど、便利な機能が付いてます。
- ③ 洗濯や冷凍庫でも使えるなど用途に応じた3種類のタグが付属。

2. 使用例（何にでもメモが付けられます。）

- ・冷蔵庫のこれは何だったっけ？ いくつもあるタッパー・冷凍庫のバック食品名や購入日付・調理日付を録音し、タグを輪ゴムで取り付けます。
- ・カゼ薬はどっちだったかな？ 売薬も医者からもらった薬も、タグをつければもう間違いません。
- ・薄いタグは書類や本に挟んで使えます。預金通帳の区別や明細を録音したり。CDやLPの仕分け・家電類の保証書や説明書のメモに。
- ・標準タグは、洗濯もOkだから、衣類につけて。青のチェックのシャツとかバラの模様のトレーナーのようにメモ。また、衣類を入れた箱にテープで留めて、「お父さんの冬物。」など箱を開けなくても分かります。
- ・その他に、ヘルパーさんへの買い物依頼をタグに吹き込んで、逆にヘルパーさんの買い物明細や残金などをタグに吹き込んでもらったり、アイデア次第でとっても便利に使えます。

3. 主な仕様

- ① 大きさ重さ:(W)55mmx(D)140mmx(H)24mm 約150g
- ② タグへの録音:1件最大3分、
トータル録音時間約55分

4. 価格(充電台、タグ50個付き、税別)

メーカー希望小売価格 ￥59,800円

5. 取扱所

日本盲人連合会、日本点字図書館、
東京ヘレンケラー協会 大活字など

【メーカーお問い合わせ】 松下産業情報機器(株)

久保:06-6866-8678

kuboj@jp.panasonic.com



編集後記

今回の会報は、とっても厚くなってしまいました。お知らせも、投稿も沢山ありました。特にウッチャンの体験記は、2回に分けようかとも思いましたが、2月まででは、間延びしてしまうだろうと、思い切って入れることにしました。

と言う訳で余りに長かったため、一字ずつ確認することが十分にはできませんでした。誤字や句読点の使い方などおかしい点をご指摘下さい。

私事ですが、メールアドレスが、変更になりました。ご連絡の際は、ご注意下さい。

日の短い時期が続きます、足元にはご注意下さい。では、2月の30号でまたお会いしましょう。投稿お待ちしております！

発行人

身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧 6-26-21

編集

JRPS神奈川支部会報編集部
佐々木 裕二
〒256-0812 小田原市国府津2364
国府津団地3-306
TEL/FAX 04**-**-****
E-mail; sa*****@ybb.ne.jp

定 価 200円